



特別
13
3541
3



登録5402號
 第 門
 第 部
 記號
 函架
 平野圖書室

門 へ 13
 號 3541
 卷 3

三 鞍 濱 於 卷 之 下

老馬大教(教訓)の事

隱士 白龍子 著

海小老馬とも老牛先生の方小じい海とやん也
 社長の祈不無(りくげ)船(ふね)は相(あ)い合(あ)はる中(なか)は心(こゝろ)ひ内(うち)はあまは
 又(また)れは海(うみ)のうらな(うらな)を家(いえ)も出(い)で亭(てい)もさ(ま)も
 巾着(きんちやく)又(また)は相(あ)い合(あ)はる中(なか)は心(こゝろ)ひ内(うち)はあまは
 あくも出(い)でた(た)やと(と)か(か)は(は)き(き)ば老牛(らうご)角(かく)を(を)あ(あ)り(り)立(た)て
 て(て)あ(あ)く(く)中(なか)は(は)心(こゝろ)ひ内(うち)はあまは
 か(か)ら(ら)あ(あ)ま(ま)は(は)心(こゝろ)ひ内(うち)はあまは

昭和三十一年
 十月五日
 購求

より真海といふにまさるが如きも又揚小車とす
 くらなり成行老馬の西家の海り先列よりまよ
 一歩の徳義と何言ふぞ一歩もあはれあま押
 よもあとの強力あるはあはれあま押
 せし海も何ともあつてあまの徳義よりあまも剛
 賊なりあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 ついあ人も剛なりあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 上とあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 ころきあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 ひもあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも

理ふらぬ海防もあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 大日如来を扱てこれあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 何とあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 けあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 あまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 やあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 うとあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 中華の古人の武王殷の討王を扱てあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 牛馬二獣の武王の討王を扱てあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも
 万民のうとあまの徳ありと申又強の恨のせむあまも

牛馬は地味流りて牛は秘林の野ふぬり馬は華山を
 陽不復人せしりゆ及びび一がたしめて大衆の力をかり
 て聖人の天下を平治せるもやうを至若國易也と
 龍武傳小乾為馬坤為牛とあれ六十二の中をどうあ
 るあるのやうに天小牛宿ましく犠牲をさうとて道又
 の星ましく御馬の宮より二名治樂といふそのなかた
 國を拓きい天地小賢い天子お軍の糸料とある皆牛馬
 の三穀をのちも其貴く用ひらまて天地の化育をなま
 け人力の及ぶるをなまて是大なる切用あり象象の
 たく及び流るやうに於て諸言孔の可馬聽と成

本牛流馬を流りて蜀の國より遠く兵糧を運送する
 祁山の陣中なる糧はあり一本を以て穀を牛とて
 其流りてのうは人もや流の牛馬をやも功を奉てやぶ
 殊でさうり梅おくとる産とていふも何とていふも
 りんらと馬の年あて凡のうとて歩ありんは是れもな
 何とていふも人海の朋とて大功あるものハ牛馬の三穀
 あくこのかき是れ和漢古今の通義あり只又象象の獨
 勇猛強力の三穀はましく流りてを自傍あれども
 夜ハ二時居やと産一過猶不及といふハ不易の聖
 語万事は流りてはばゆるるもこのかき半竟中庸の

大漢記 卷之十

御ふけひたるふ後牛馬の二鞍人のごあふ功果多
 一もあや獅子虎のとりたの漢陽の斤斬をうけて
 強のふて業あふ後人よ用ひられて功果とあま
 りもあはれあへぬう人もうほてあひて穀あつた
 其氣質の稟たる事いとたのあつたと宋初の
 朱晦菴もゆられて衆が仲間あもち身一息ふ子星
 を絶する馬ありといふも先片斬と交する馬あふ
 依る能あるふ似て國家の助とかは漢文帝時有
 敵千里馬者詔云驚輿在前属車在後吉行日
 五十里朕東千里馬独先安之乎與道里費而却馬



二氣演義 卷之一



取らりて於朝人皇九十九代後醍醐天皇の所は雲列
 窟田より千里の馬を執ざるの所の海の大隈万里の
 有房鄒文帝の志事をして深く是を以て也其の
 所も今も賢人君子のふる所也其の所も一長と形は
 勇猛の天のあせりもあまき牛馬をのこ國ふりて形
 めも大小ある海一勇猛をも甲じまべ一牛馬や虎
 のとれどくしりもあまき一猛とてそれぞこのんで一
 物も強勇と志あまきあまきの西夷の勇かり歯牙
 をもてお指ぬも強とてはのむもははらむもはらむ
 かは天地の間合氣の類もあまきのよう一強も人ふ

天地の体と具とを以てして、人をも以てて、天地の体と具とを以てして、
 小男あり大男あり、こゝろあるありあつたをたのむあり、
 かぐのいざり月目らんをあるあり、
 正なる人あり、
 智あれがた、
 とりとも、
 まい、
 あり、
 大功をな、
 人、

宗ては、
 の、
 是、
 鳥、
 り、
 地、
 大、
 流、
 此、

といふも富貴天下のありあつては富貴を強てこの種
 人の衆が中言ふ所は此令を堆て北斗を指しても
 生あらばの海をさうと白樂天がいはんやみ故をそ
 然かあらんかどう賞より賞を極む福をばんを衆後
 いかん海を日中前後申ののめんが南より天子の軍
 もり下下巴更巴婦おむる中を夜の時波の系を初はよ
 もそ衆の所はのめりといふも衆極て衆を存の
 定法をもて盛なる中にお信を海きう一此の衆つと
 此の衆といふも事あるのにお海軍汗をひか
 かい流してかきこ流るの衆もこのいふか

外とこれ衆を投して此後感ある形海を此の
 といふ此衆の所は此令を堆て北斗を指しても
 其の其後文禄二年小黒江の二衆及びあつてといふ
 海軍の事も小黒江の津を此衆とて此衆人
 衆を此衆の衆の衆を此衆といふも此衆といふ
 けな衆は海軍の衆なる海軍も此衆といふ衆の貴
 衆は此衆の衆も此衆の衆の衆の衆の衆の衆の衆
 と衆は此衆の衆の衆の衆の衆の衆の衆の衆の衆
 かつ衆といふといふといふといふといふといふ
 大衆老牛老馬と和漢抄言約の書

物系亦少んばして老馬とも中引重老牛先せん入の
 高物新表草へんりあるせ果馬の脊骨もこむ牛よ
 附年まりの取込の老馬老牛小抜家まれば老牛よと
 打極む由る表海よりのおおね流すをわづら痛入る
 かと換取あひらり一老馬も何をうかとなんとも必は合
 取河ます志ざうりの中せば老牛よ中より一老牛の引
 中くある海一取後よも中食果又なぬる海一草屋
 のとりりてんぬ取も中名物おれとも大切のおけ入
 中後中よあるとは取果もす志かうと地濃虎座の膽取
 とお果はせり取果は思ふ表果は合先同音の取取

へ取く老無又なぬり一引人老馬取果も思ふ又なぬあま
 め一何ぞや中せう老馬も中後宿と中引果
 取と下大湯果取もあるとお果のとりりそれく
 何事も取果は思ふも又なぬせよと中引果まより
 取とひくは取果は胆取中の草より馬の煎果ある種
 取とあつりしなまな一取老牛小むい海も取果なる
 地濃湯取果は取果の中固林和清が果取とすは取果
 風味の能果取果も取果の味は取果一取果老
 からの食取は取果も取果の味は取果一取果老
 取果の果取も取果も取果の味は取果一取果老

たるべきをばたきまじりてかき一善賢がむらりて流人
 したく老馬の人も流人は流人なれば流人の代り末代は
 の一と奉^{いちばん}ゆゑも^い一今より牛馬の由あるを
 りんとの義をひまんにてはかたかり天地は^{あま}あま
 たふかうと鼻指伸て側^{そば}なる勝流と一捲^{まくり}たふ
 ころとある共二つ花と二つ食一終^{はつ}中^{ちゆう}あはけ物^{もの}中^{ちゆう}あ
 そむくはま^まん^んの^のと^とく^くま^まは^は二^に段^{だん}と^と一^一段^{だん}は^は一^一段^{だん}は^は
 かしら^{かしら}らん^{らん}の^のあ^あの^のあ^あつ^つと^と一^一年^{ねん}一^一和^わ一^一打^{うち}り^り
 りの^りで^で一^一と^とり^りある。

老馬身のと物後乃事

象^{ぞう}と^とや^やら^らげ^げ目^めと^と細^こく^く一^一老^{らう}馬^まは^は向^{むか}く^くや^やり^りる^る一^一海^{かい}
 中^{ちゆう}の^の又^{また}智^ち教^{きやう}あ^ある^る中^{ちゆう}に^には^は一^一び^びの^の公^{こう}候^{こう}の^のは^はと^と
 也^や勤^{きん}ある^る事^{こと}な^なん^んが^が中^{ちゆう}も^もあ^あら^らう^うあ^あり^り想^{そう}一^一て^て日^{にっ}の^の
 馬^ばは^は老^{らう}馬^ま若^{じやく}馬^まと^とり^り不^ふ老^{らう}の^のと^とく^く後^ごの^のあ^ある^る又^{また}形^{けい}体^{たい}
 強^{ちやう}弱^{じやく}も^もあ^あら^らう^うの^のあ^ある^る中^{ちゆう}に^には^は一^一と^とり^りあ^ある^る一^一老^{らう}
 若^{じやく}く^く象^{ぞう}が^が類^{るい}族^{ぞく}も^もあ^ある^る海^{かい}く^く形^{けい}は^は大^{だい}小^{せう}あり^り強^{ちやう}弱^{じやく}
 あり^り一^一枚^{まい}あ^ある^る一^一先^{せん}に^に作^{さく}た^たる^る物^{もの}あ^ある^る一^一形^{けい}
 中^{ちゆう}に^にあ^あら^らう^う又^{また}奥^{おく}列^{れつ}仙^{せん}臺^{たい}南^{なん}部^ぶの^の馬^まは^は大^{だい}人^{じん}あ^ある^る
 多^たく^く一^一と^とり^りも^も端^{はな}と^と一^一甲^{けつ}列^{れつ}佐^さ流^{りゆう}の^のま^ま一^一と^と
 大^{だい}人^{じん}あ^あら^らう^う一^一と^とり^りも^も出^{しゅつ}國^{こく}險^{けん}理^りの^の目^めと^とあ^あら^らう^う一^一と^とり^り

蹄法蹄。周禮周禮の記記に云云凡凡馬馬八尺八尺以上以上為為龍龍七尺七尺
 以上以上為為駮駮六尺六尺為為馬馬又又春秋春秋說說題題云云地地精精為為
 馬馬十二月十二月而生生應應陰陰紀紀陽陽以以合合功功故故人人駕駕馬馬任任
 重重致致遠遠利利天下天下故故馬馬善善走走云云又又人人あるあるととてて其其
 流流とと流流あるある也也又又於於自然自然の流流紀紀とと小小川川とと流流るる
 よよの流流ももああららんんが發發端端かかどどああららんんとと大大馬馬の款款
 の目目ありありふふあるあるののとと云云流流へへりり蹄蹄の強強とと流流をを示示
 も記記せせるる也也とと馬馬駮駮馬馬とと小小人人也也馬馬也也大大あるある流流
 あるあるののありありるるはは海海とと馬馬とと月月利利とと小小人人也也凡凡二二とと
 中中事事ありありとと如如りり也也りりんんふふららんんとと海海の

國國の馬馬も一一格格小小りり也也温温和和かかららあありり曲曲ありありのの後後意意
 なるなるありありとと肝肝仲仲肝肝下下肝肝の流流ありあり目目小小物物とと目目をを
 終終るる也也年年子子也也とと言言てて駮駮とと小小かかららんんとと知知不不知知也也海海
 てて矣矣ののととりりととももももとと馬馬也也とと言言りり也也とと言言りり也也とと言言りり也也
 胡胡能能惡惡馬馬八八條條系系雜雜大大澤澤水水の流流流流多多くくとと言言りり也也目目小小
 曲曲ありあり馬馬とといいふふののはは感感とといいふふとと曲曲とと也也一一とと馬馬小小はは正正
 一一海海とと地地也也ののりりのの馬馬八八利利也也流流とといいふふとと言言りり也也
 中中流流へへりり義義武武流流とといいふふとと言言りり也也又又同同くく云云也也
 功功用用中中とと言言りり也也也也とと言言りり也也也也とと言言りり也也也也とと言言りり也也
 也也一一事事ももああららんんとと言言りり也也功功のの大大あるある流流紀紀也也とと

一葉漢語考

下は海くまびつて一第^{かぐやく}元儀^{げんぎ}の古海志^{ふるうみし}ある天行^{てんぎやう}無^な
知^ち龍^{りゆう}地用^{ぢいう}無^な如^に馬^ばとありて牛^{うし}八^は能^に下^{した}たる^たの用^{よう}と辨^{わん}
一泰^{たい}平^{へい}の功^{こう}とかたのありところもあふ下^{した}の第^{だい}別^{べつ}
なく同^{どう}位^い同^{どう}機^きなりかむが書^{しよ}業^{ぎよ}は流^{りゆう}くは御^ご軍^{ぐん}の馬^ばあり
國^{くに}主^{しゆ}城^{じやう}も^ものまあり^あり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり
あり所^{ところ}は馬^ばあり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり
あ^あく其^{その}職^{しやく}も^もあ^あり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり
よ^よなり^り人の^の後^{のち}もの^の用^{よう}と辨^{わん}れ^れせ^せし^し御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り
た^たあ^あの^の後^{のち}は^はあ^あり^りま^まま^まの^の後^{のち}は^はあ^あり^りま^まま^まの^の後^{のち}は^はあ^あり^り
あ^あり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り

同^{どう}あり^り只^{ただ}浦^{うら}出^でぬ^ぬ幕^{まく}下^{した}の^の武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り
馬^ばあり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り
と^とま^まあ^あり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り
馬^ばあり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り
お^おも^も親^{おや}と^とあ^あり^り馬^ばあり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り
ま^まあ^あり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り
と^とあ^あり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り
川^{がは}か^かへ^へら^らひ^ひま^まあ^あり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り
あ^あり^り御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り
御^ご機^きは^は陸^{りく}路^ろの^の馬^ばあり^り武^ぶ取^との^の馬^ばあり^り

大馬也者と云ふは御軍より山下馬場等の馬より夫は
 かんざと大馬の夫はふれとふりといはれしもの
 くらしむはそれなり山下の馬たはびるはれも食ふ
 せむるものおいおんはなぬのまはる人のか
 飲うは夜中ををい流るは馬方おは出れ人ともむの
 といはれぬものふらふりあり歌のといふつらふれ
 何のこのてもむの事一はふらふりこころんがむい一はむ
 たふてまのりして御軍の御つよと雲の難えりつるれも
 流るは高きものふらふりありありかき流のいふむるもの
 もあはれお流るものふらふりありありかき流るもの





て親方の目をおよそ馬の力をはうかしては
 わるのわらうそふぬりそやふらうと
 まへに強ひける客人もむゆふのせる分利さうり
 とそふ客がけは^{とく}高き^{とく}の又高きなりその
 ひろきりのある海の子は^{とく}高き^{とく}なり
 ちやまのつらつら^{とく}高き^{とく}なり
 まへに強ひける客人もむゆふのせる分利さうり
 とそふ客がけは^{とく}高き^{とく}の又高きなりその
 ひろきりのある海の子は^{とく}高き^{とく}なり
 ちやまのつらつら^{とく}高き^{とく}なり
 まへに強ひける客人もむゆふのせる分利さうり
 とそふ客がけは^{とく}高き^{とく}の又高きなりその
 ひろきりのある海の子は^{とく}高き^{とく}なり
 ちやまのつらつら^{とく}高き^{とく}なり

大長巻 一巻

三

始^しの七^{しち}之^の名^な馬^ば項^{かう}羽^うが鳥^う騷^{そう}劉^{りゅう}備^びの的^{てき}願^{げん}承^{じやう}初^{しよ}小^{せう}
 聖^{せい}施^し子^しの甲^{かう}斐^{はい}の墨^{すみ}約^{やく}比^ひ本^{ほん}挽^{えん}系^{けい}が生^{せい}啼^{てい}磨^ま墨^{すみ}是^し小^{せう}
 の西^{せい}の馬^ばを^をハ^ハ識^しの馬^ばと^とも^も中^{ちゆう}道^{だう}一^{いつ}を^を小^{せう}依^いく者^{しや}と^との
 功^{こう}を^をか^かして^{して}来^きハ^ハ其^{その}名^なを^をき^きく^く以^{もつ}て^て以^{もつ}て^て掛^かり^り死^した^たれ
 ば^ばその^{その}名^な楓^{ふう}女^{にょ}の^の小^{せう}入^{いり}皮^ひを^をと^とり^りて^て以^{もつ}て^て以^{もつ}て^て掛^かり^り死^した^たれ
 ば^ばや^やる^る事^{こと}比^ひ人^{にん}の^の小^{せう}用^{よう}を^をた^たま^ます^すて^てか^かり^り馬^ばの^の脚^{きゃく}の^の小^{せう}入^{いり}
 者^{しや}を^を察^{さつ}見^{けん}の^の小^{せう}入^{いり}に^に武^ぶ海^{かい}の^の一^{いつ}方^{ぱう}あり^り礼^{らい}を^を小^{せう}入^{いり}
 足^{あし}乃^な及^{およ}ぶ^ぶ火^か急^{きゆう}の^の用^{よう}を^を辨^{べん}ト^ト九^く死^し中^{ちゆう}の^の場^{ばう}中^{ちゆう}て^て大^{だい}お
 の^の必^{ひつ}死^しの^の脚^{きゃく}を^をと^とり^り以^{もつ}て^て以^{もつ}て^て掛^かり^り死^した^たれ^れも^も馬^ばを^を入^い
 と^とも^もく^くの^のり^りお^おの^のり^りより^{より}系^{けい}約^{やく}の^の中^{ちゆう}と^とす^す又^{また}字^じの^の脚^{きゃく}を

か^か一^{いつ}形^{けい}を^をた^たま^ます^すを^を忘^{わす}れ^れた^た平^{へい}小^{せう}敏^{みん}ヤ^ヤむ^む以^{もつ}て^て小^{せう}武^ぶ海^{かい}の
 脚^{きゃく}大^{だい}平^{へい}と^とハ^ハ大^{だい}子^しち^ちが^がい^い月^{げつ}の^の新^{しん}正^{せい}の^の二^に倍^{ばい}倍^{ばい}あり^り人^{にん}
 甲^{かう}胃^胃を^を帯^{たい}ト^ト武^ぶら^ら鉄^{てつ}炮^{ぱう}鎗^{しやう}長^{ちやう}刀^{たう}を^を提^{てい}首^{しゆ}を^をと^とり^りて^てハ
 お^おの^の後^ごの^の序^{しよ}中^{ちゆう}より^{より}身^み人^{にん}馬^ばの^の鞭^{べん}、[、]糸^{いと}輪^{りん}の^の痛^{いた}み^みを^をわ^わら^らげ
 付^つて^ての^のう^うみ^みは^は二^に年^{ねん}と^とも^もび^び鞋^{かぶ}が^があ^あら^らず^ず、[、]其^{その}名^な乃^な
 の^のを^をと^とり^り付^つて^て鉄^{てつ}炮^{ぱう}の^のわ^わけ^けを^をも^もと^とり^りて^て以^{もつ}て^て以^{もつ}て^て掛^かり^り死^した^たれ^れ
 たら^{たら}たら^{たら}と^とい^いは^はら^ら鉄^{てつ}炮^{ぱう}鎗^{しやう}長^{ちやう}刀^{たう}の^の目^めを^をと^とり^りて^て以^{もつ}て^て以^{もつ}て^て掛^かり^り死^した^たれ^れ
 たら^{たら}たら^{たら}と^とい^いは^はら^ら鉄^{てつ}炮^{ぱう}の^の馬^ばを^をと^とり^りて^て以^{もつ}て^て以^{もつ}て^て掛^かり^り死^した^たれ^れ
 たら^{たら}たら^{たら}と^とい^いは^はら^ら武^ぶ門^{もん}の^の大^{だい}要^{やう}と^とい^いは^はら^ら武^ぶ海^{かい}の^の中^{ちゆう}
 小^{せう}も^も入^いる^る子^しも^も夫^ふ馬^ば必^{ひつ}安^{あん}其^{その}處^{ちよ}所^{じよ}適^{てき}其^{その}水^{すい}草^{そう}

一夫負一馬

策問

節其創飽冬則温廐夏則凉廐刻剔毛
鬣謹落四下人馬相親然後可使といひ又曰
凡馬不傷於末必傷於始不傷於飢必傷於
飽日暮道遠必數上下寧勞於人慎勿勞
馬常令有餘備敵覆我能明此者横行
天下と云々古今の馬を巧用とせるものおのよ
なりといふ事も知らざるは奴隸の人のくみん
つゝめらるゝ一せ槽檻のらふ駢死皮は穢
あはれ海狗の食とかりて骨は小塚を
のら川と消えたる事ありと云ふたは事なりと

色は伯樂と云ふはばかしくおのつゝあるに平竟天
今と云ふは誰まゝの物と見ゆると云ふ人な
のありは海狗の食とかりて骨は小塚を
なり備へたるは馬の身に備へたるものあり
飽する子のみのありは備へたるものあり
あることとあることとのこととあり
今昔んと老牛馬のつゝ老馬は老馬は老馬
老馬は老馬は老馬の世にわかれ初むは
と云ふ拍子ありていかに牛もわらわらと
と角とありていかに牛もわらわらと

策問

策問

三行... 一巻...

おりのハそのまゝゆめハたうあまあり

享保十四年己酉秋七月

松會堂壽梓



三行演説巻之下終

シラ...

